

# ヤジロベー死亡三昧

ごうけつ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

死亡能力と無限生き返り能力を得た不死身ヤジロベエの残酷話

# 目次

ヤジロベエ死亡三昧

1



# ヤジロベ―死亡三昧

ある朝ヤジロベ―が目覚めるとカリン様がヤジロベ―に言いました。

「ヤジロベ―、お主に素晴らしい能力を身につけさせてやったぞ。無限生き返り能力じゃ」

その意味をヤジロベ―はすぐに悟りました。

ヤジロベ―は荒野をしばらくふらふら歩いてました。じきにベジータがやってきて

「おい、デブ。殺してやる。ありがたく思え。」

ヤ「ひえええ、助けて下さい。ベジータ様。あなた様のご命令に何でもしましたがいますから。」

ベ「うるさい。覚悟しやがれ。」

ベジータは震えるヤジロベ―の体を触りながら

「ふふふ、いい体しているじゃねえか。まずはこのどてっ腹に風穴を開けてやる。」

ズドーン！

腹を撃ち抜かれ思わずうずくまるヤジロベ―

「おうっ」

ベジータは間髪入れず脇腹、みぞおち、その横、両胸と撃ち抜いていきました。そして心臓を掴むと満身の力を込めて握りました。

ヤ「ぎやああああああああああああああああああああああああああああ

すばやく心臓を抜き取り地面に落とします。

さらに胴体の横の下↓中↓上の撃ち抜き手を横に広げさせ真一文字に貫通。

ベジータは空に飛ぶと肩↓足、頭↓股下と撃ち抜いていき、腕と足にも穴を開けていきました。

更に空へ放り投げるとギヤリツク砲をこれでもかと浴びせました。

地面に落下したヤジロベエ、全身から湯気が出ています。

ベ「立て！」

ぜえはあぜえはあいいながら必死に立ち上がるとヤジロベエの死の瞬間です。

ベジータはギヤリツク砲でヤジロベエの頭をあとかたもなく消しさりしました。

ヤ「ぎやあああああ……」

ヤジロベエが殺されるのを見ていた悟空と悟飯。

ぱちぱちぱちぱち拍手喝采です。

ベ「どうだ、カカロット。貴様には到底出来ない芸当だろう」

空「そんなことねえよ。オラサイヤ人だぜ。なあ悟飯。」

飯「はい、もちろんです。楽しそうですね」

ベ「じゃあ、今度は貴様らがやつを殺してみろ」

空「いやつたあ」

飯「へへへ、ありがとうございます」

ヤジロベーはほどなくして生き返りました。歩いていると悟空と悟飯にでくわしました。

ヤ「悟空、聞いてくれよ。ベジータの奴ひでえんだぜ。オレ、さつきベジータに殺されたんだ」

空「ははは、何言ってるんだ。オラにはベジータの気持ちよおく解るぞ」

ヤ「えっ」

悟空もヤジロベーの腹をさすりながら

「とうとう、オラがおめえのどてつ腹に風穴を開ける日がやってきたんだ」

ヤ「……………」

悟「死にやがれ、ブタヤロー！」

どてつ腹を勢いよく撃ち抜いていきました。

ヤ「どうおおおお」

それからはベジータと全く同じ攻撃、とどめに頭を吹き飛ばされたヤジロベー、死に





た。

着くとすぐカリン様が感想をたずねました。

ヤ「へへへへ、すげえ楽しかった。殺されるってのはいいもんだな」

カ「そうか、ところで何か欲しいものはあるか？」

ヤ「超神水つオレあれ飲んで死にてえ」

カ「欲張りなやつじゃな、そこにあるから好きなら飲むがいい。」

ヤ「へへへ、サンキュ」ゴクゴクゴクゴクゴクゴク

「うぎやああああああああああああ」

ガクツ

ヤジロベーは死にました。

死ぬことが大好きになったヤジロベーは外ではベジータたちに殺され、カリン搭では

超神水をくり返し飲み干し死と遊んでました。

そんなある日カリン様が

「ヤジロベー、新しい能力をやるうか？」

ヤ「どんな能力だ？」

カ「ずばり、即死能力じゃ」

ヤ「欲しいつ是非下さい。」

カ「この能力はな、ダメージを受けた瞬間軽く力を入れる。そうすれば確実に死ねる」  
この能力を持って町へ行きました。すると悟空が

「ちよつと一緒に来てくれ」というのでついていききました。

悟空はある研究所に入っけていき博士に

「いいもん持つて来た。これでいいか？」

博「おおつなかなかないブツじゃないか。気に入った。では引き取ろう。お金はいくらじゃな？」

悟「そうだな、2000万くれえ貰おうか。」

博「なんじゃ。ずいぶん安いのお。ではその4倍の8000万でどうじゃ」

商談成立。

博「さて、お前さんにはわしの実験台になって貰うぞ。もちろんお前さんは命の補償は無い。」

ヤ「はいっもちろんいいです。どんどんオレを殺して下さい。」

その実験とは死に到る病気の体における経過でした。

機械に入れられ発ガン剤を大量に投与され実験開始。

ヤ「ぎゃああああああああああああああああ」

ガン細胞が全ての内臓を侵します。

心臓がガン細胞で埋まるとヤジロベエは死にました。生き返り実験は続きます。

肝硬変、心筋梗塞、脳卒中、血液凝固と。その度にヤジロベエの命が消滅してしました。

ひととおり実験が終了すると博士は

「ごくろうさん。君のおかげで貴重なデータを取れたよ。ところで協力してくれたお礼にこのわし自らの手で君を殺してやりたいのだがどうじゃ？」

ヤ「よろこんでっ」

博士は桶に水を貯めるとヤジロベエの頭を水に押し込みました。

ガボガボガボガボガボガボガボ、

ガクツ。

ヤジロベエ溺死。

次は硫酸のプールに突き落とすし、ヤジロベエは溶けてあとかたもなく消え去りました。

それで解放されたヤジロベエ、町をふらふら歩いていました。するといかにも気の弱そうなたった男とぶつかりました。

男「何すんだよお」

しかしその声はあきらかに無理をしているような声でした。

ヤジロベエはすかさず

「ごっごめんなさいっどうか命だけは助けて下さい」

と命乞いをしました。もちろん演技ですが。すると男は

（こいつを殺して死体を持っていけばいじめっ子も僕を恐れるかも）と心で感じ

「うるせえ、お前を殺してやる。覚悟しろ」と言いグサツ！

ヤジロベエの腹に包丁を深々と突き刺しました。

ヤ「うっ」

それから腹をメツタ刺し、胸もかなり刺しました。そして

「もうそろそろ死んで貰うよ」

心臓のど真ん中を

グサリ！

するとヤジロベエは即死機能を使い死にました。

男「やつやったぞ。とうとう僕も人殺しが出来たんだ。バンザイ」

男はいじめっ子のところに行き死体を見せました

。いじ「おっお前人殺ししたのか？ひええっもうお前には逆らわないよ」

更にヤジロベエが歩いていると少女が近づいて来て

「ねえ、死んで」

と言ったのでヤジロベーは少女のあとについて行きました。

川までくると少女はヤジロベーの頭を掴み無理矢理川の中に突っ込みました。

少女「くたばれええ」

ガボガボガボガボガボガボガボ、

ガクツ。

ヤジロベー本日2度目の溺死。

少女は友達に死体を見せびらかしました。すると友達は

「すげえ、お前人殺し出来るんだ。偉いよな」と褒めまくりました。

更にヤジロベーは町をぶらぶら。すると女に声をかけられました。

女「ねえ、あなたを殺したいんだけど、いい？」

ヤ「ああ、いいけどなんで？」

女「人殺しに理由なんてあると思う？」

ヤ「そうでした。ごめんなさい」

彼女の殺し方は絞殺。太いヒモを首に巻くと締め付けました。

ぎゅううううううううううううううううう、

その力の凄いこと、あつという間に首にヒモが深く食い込んでいきます。



カ「ふふふふ、これはただの毒蛇ではないぞよ。コブラの2000倍の猛毒を持つバジリスクじや」

ヤ「カリン様、能書きはいいから早くこいつらに咬ませろよ」

カ「いけえ」

蛇がヤジロベーの体を這って位置につきました。

カ「咬めえええ」

ガブツ！ガブツ！ガブツ！ガブツ！……

牙を深く突き入れ一気に毒を注入。

カリン様はここでヤジロベーに試練を与えました。

それは①悲鳴はおろか口も開いてはいけな。

②どんなに苦しくても手を喉にやってもがいてはいけな。

③のたうち回らず直立不動でいること。

ヤジロベーは

「わかった。やってやる」

と気合いを入れました。

その瞬間猛毒で体に激痛が走り毒がヤジロベーの全身を駆け回りました。

ヤ「……………」

目ん玉丸くしながらも必死で耐えてました。全身からあぶら汗を流して。

40分後カリン様が合図を送ると蛇はすぐヤジロベ-の体を離れました。

その瞬間ヤジロベ-は地面にドサツと倒れ息の根が停まりました。

生き返ると今度はカリン様は地上に行き「飛び降りろ」と命令

。すぐダイブしたヤジロベ-、

地面に全身を強打して即死。

死体はウパたちにプレゼントされました。

カリン様がカリン搭に戻るとヤジロベ-はすでに次の死への準備をしていました。

首吊り自殺をしようというのです。縄に首をくくると思いつきり台を蹴つ飛ばしました。

ガクン。

見事にヤジロベ-の首が縄によって絞められこれまた即死。

この首吊り死体はカリン搭の真ん中にずうつとオブリエとして飾られました。

町では一般市民に殺され、ベジータたちにも殺され、カリン搭でも自殺を含め命を奪われ爆死に射殺、溺死に絞殺、毒殺に焼死、病死に転落死、それに自殺とこの先無限に死のラビリンスでヤジロベ-の死にさまを経験していくのでした。ちなみに最初の命乞いはもちろん演技であつたのと言うまでもない。